# 令和4年度・第 11回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　令和５年2月19（日）13：30～16：20

場所：　西集会所

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
鎌田　卓（事務局長・会計）、平尾　英城、山田　勲、三室　哲哉、中世古　昭一、
山田　修、谷猪　富貴子、渡辺　昇、山地　祐輔、
オブザーバー参加：　中尾節子
欠席：　田口　信義、平井　誠三、鈴木　豊、黒田　勝行、蔵田　かほり

配布資料：
① 令和4年度第11回（2月度）未来会議（全体会＆分科会）議題（案）V2
② 鹿ノ台中央公園の魅力向上プロジェクト「鹿ノ台中央公園の利用に関するアイデア募集」中間報告
③ ソーラー発電（脱炭素まちづくり）勉強会 半年間の勉強会活動の“まとめ”
④ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 実証運行 乗車実績（人数）R5.1 月度
⑤ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 実証運行実績 分析 令和5年１月度
⑥ 令和5年度 未来会議 全体会／分科会・幹事会 予定
⑦ ECOKA 委員会 令和4年度 植樹活動支援事業／植栽の位置図／令和4年度 鹿ノ台周辺緑地整備事業／令和4年度 鹿ノ台第2緑地 二次林・幼竹作業完了報告書／令和4年度 緑地への不法投棄ゴミの集積記録
⑧ 鹿ノ台周辺地域の人口推移に於ける2013年1月1日（10年前）の人口に対して各年（1/1）の減少率／鹿ノ台周辺地域の侵入窃盗件数率

## 会長挨拶

全国の自治体が脱炭素化社会に向けた取り組みを推進しているなか、未来会議でも脱炭素まちづくり勉強会を実施してきた。本日は、この勉強会のこれまでの活動について報告してもらう。また、これまで自然環境保全活動・環境教育・環境保全啓発イベントを実施してこられた ECOKA 委員会からもご報告を頂く。

## 子育て分科会

子育て分科会では、転入促進の観点から、中央公園の魅力を向上するための方法を考えてきた。地域の皆さんが多様なご意見をお持ちであろうことを踏まえ、自治会員の皆さんと小・中学校の児童生徒から、中央公園の利用に関するアイデアを公募した。

回答状況：　自治会員からは QR コード経由と紙ベースで合計145通の回答を頂いた。小学校からは、学校活動の一環として取り組んでくださったため、500通近い回答を頂くことができた。中学校については、受験シーズンで多忙であるということで、回答は QR コード経由といきいきホールポストへの投函での対応となり、回答数は15通に留まった。

集計結果：　自治会員からの回答と中学生からの回答については集計結果が出ている。小学生からの回答については、約半数の276通まで集計済みである。

〇自治会員からは、欲しいものとして「遊具」36件に対して、現状維持と遊具反対が合計36件あった。遊具以外の希望では「ベンチ」22件、「屋根・日よけ」14件、「健康器具」13件などが多かった。希望する「遊具」で多かったのは「アスレチック」9件、「すべり台」（いろんな種類合わせて9件）だった。自治会員からのご意見は、欄外に少数意見を網羅して記載したので参照いただきたい。また、中央公園の使い方については、「子どもの遊び・運動」が53件と一番多く、「憩い・交流」45件、「散歩・散策・通過」30件が続いた。様々なイベントを希望される意見も多く、合計で50件を超えていた。

〇小学生からは、欲しいものとして「遊具」376件とスポーツ設備88件が多かった。遊具の内訳では、「アスレチック」118件と「ブランコ」99件、「すべり台」78件などが多かった。スポーツ設備としては「サッカー」設備が37件、「バスケットボール」設備が31件だった。中央公園の使い方については、「遊び」83件が一番多く、球技をしたいという回答も非常に多かった。小学生の回答には、「皆で楽しむ」という意見が多く、「大人も子どもも」「いろんな人が」「他の人のじゃまをしないで」というような、他者への配慮が感じられる回答も多かった。「大切に」「きれいに」使いたいという回答も31件あった。

〇中学生の半数以上がキッチンカーやフリーマーケットなどのイベントを希望していた。バスケットゴールを希望する意見も6件あった。

自治会員から、特に興味深いアイデアとして、さまざまな世代が中央公園を楽しむための「ゾーニング（エリア分け）」や「時間帯別での利用」という提案があった。今後の話し合いでも参考になる考え方ではないかと思う。

今後のスケジュール：　最終的な集計結果の報告と合わせ、5・6・7月に予定しているワークショップ（話し合い）のチラシを3月中に回覧できるよう準備したい。

意見：　ワークショップに参加したいと表明している小学生が、集計半ばで既に1年生5，6人を含めて18人もいる。そんな地域はめったにないのではないか。小学生から高齢者まで一緒になって中央公園をどうしていくか話し合い、一緒に考える、知り合いになる機会を作ること自体が良いことではないか。

質問：　鹿ノ台中央公園は各自治会にある街区公園とは違う位置づけだと思う。このプロジェクトは、中央公園を街区公園に近づけていくことを標榜しているのか。

回答： そのことを含め、ワークショップで話し合っていけたら良いと考える。ただし、子育て分科会としては、当初は、小学校東門前の藤棚のあたりが暗く、ほぼ利用者もいない状態なので、景観に合ったターザンロープ等を設置して、子どもが集まれる場にしたらどうかと検討していた。西2丁目には街区公園がないので、砂場の跡もある藤棚周辺は、西2丁目の街区公園という位置づけだったのではないかとも考えている。

ところが、この検討内容に対して自治会員から反対のご意見を頂いた。これを受けて、世代間の意見の隔たりが大きいと思われる中央公園の利用について、世代間の対話のきっかけとして、出会って話し合う機会を作っていこうということになった。キッチンカーやマルシェなどのイベントも好評なので、そうした利用のあり方についても検討を進めたいと考えた。

今回のアイデア募集では、未就学児の親子が交流の場を求めていることも分かった。かつては街区公園ごとに未就学児や小学生がたくさんいたのだろうが、少子高齢化の中、中央に集まらないと親子の交流も、小学生同士の遊びも成り立たない現実がある。

質問： このプロジェクトは、ワークショップ終了時に結論が出ない場合は、その後も中長期的な視点から継続していくのか。
回答： ハードの面とソフトの面があり、ハードの面では意見を集約するのは難しいかもしれない。また、結論は一つとは限らない。ワークショップ終了後も状況に応じて継続していくことはあり得る。

## 高齢者分科会

高齢者分科会で話し合ってきた内容が、連合傘下の「支え合い準備委員会」の活動となり、分科会メンバーも全員、支え合い準備委員会に参加している。4月からのサービス提供の開始に先立ち、記入項目の多かった方、心に不安があるなど対応が必要と思われる方にポスティングを行った後、電話を入れ、状況把握のため一部の方の面談調査を進めている。今のニーズではなく、将来的なニーズについて記入された方もいた。4月のサービス開始時期にはパンフレットを全戸配布して周知を図る。

支え合い準備委員会は4月から「支え合い委員会」になる。高齢者分科会の活動は一旦休止して、当面は支え合い委員会の活動に注力したい。

結論： 高齢者分科会は発展的解消ということで解散する。

質問： 支え合い準備委員会のメンバーは支え合い委員会のメンバーと同じか。
回答： メンバーに入る予定である。

## ソーラー発電（脱炭素まちづくり）勉強会

<u>勉強会について：</u> 当初、運動公園でのメガソーラー発電の提案を行ったが、都

市公園法の規制があり実現できなかった。他方、いきいきホールでのソーラー発電の実現可能性を検討した結果、小規模なため売電には適さず、資金回収に時間がかかるものの、蓄電池を設置して発電量の多くを自家消費する形であれば、「脱炭素まちづくり」の理念にふさわしいプロジェクトであるとの結論に達した。

昨年6月から毎月1回（全7回）、自由参加の勉強会を開始し、理解を深めてきた。毎回世話人がテーマを設定し、事前に資料を配布し、これについて議論してきた。毎回議事録を作成し、またＱ＆Ａ集も作成し、身近な問題として理解を広げる努力を行ってきた。「第6回勉強会のご案内」のメールに最新の Ｑ＆Ａ 集を添付した。

<u>世界の動き：</u> 気候変動枠組み条約の COP21（2015年）では、途上国を含む主要排出国が2020年以降、温室効果ガスの削減対象となった。これは先進国だけに義務を課していたそれ以前と比べて画期的なことだった。日本は「2030年までに排出量を2013年比46％削減する」および「2050年までにカーボンニュートラルを達成する」との公約を行った。産業界はこれを商機と捉え、さまざまな分野で炭素削減のための技術開発を行ってきた。

<u>脱炭素先行地域プロジェクト：</u> 昨年開始された国の「脱炭素先行地域」プロジェクトでは、年間400億円の予算が組まれ、全国100の先行地域それぞれに7年間で50億円の補助が行われる。昨年2回の募集で 51 の先行地域が既決となり、残り49地域が今年中に決定する。生駒市は先週末、3回目の募集に応募した。1月19日には、いきいきホールにて、生駒市 SDGs 推進課から生駒市脱炭素先行地域推進プロジェクトの説明があった。この生駒市のプロジェクトには自治会単位で参加可能で、参加すると①自治会館等に無償でソーラー発電設備を設置することが可能となり、②各家庭での自然エネルギーの利用促進などにも協力していくことになる。プロジェクトには公共交通（バス）の EV 化も含まれている。

このプロジェクトを活用していきいきホールにソーラー発電設備を設置することが可能であり、これに勉強会としては賛成である。脱炭素まちづくりは今後10年、20年と続けていく事業であり、若い世代や女性の方のご理解とご参加をお願いしたい。月1回の定例勉強会は前回で終了し、今後は市の動向を見ながら随時、必要に応じて会議を行っていく。

質問： 鹿ノ台以外の市内の自治会はどのような反応か。
回答： 生駒市の説明では、あすか野など4～5地域が手を挙げて検討を始めているという。鹿ノ台への説明は時期的に非常に遅かった。

質問： 自治会として手を挙げるというのは、どういう手続きを経て、どのような形で行われるのか。勉強会が「やる」と言えば決まってしまうようなものなのか。
意見： そのことは自治連合会でも議論になった。市の提案はメリットだけを強調しているが、具体的な廃棄費用やランニングコストなどは不明である。議論が不足しており、手続き的な問題もある。
回答： 10年間は設置・管理コスト負担する事業者がソーラー発電設備の所有者であり、屋根を貸している住民・自治会には自己負担がないが、発電された電力は割安に購入できる。10年経過後は所有権が住民や自治会に移行する。いこ

ま市民パワーから電力を購入する義務もなく、他の電力との契約を続けることも可能である。

回答： 自治体が住民と一体化して実施できるかどうかが問われている事業である。そのために事前に説明会が行われたが、具体的な提案が出てくるのは、生駒市が先行地域に選定されてからだろう。自治会で具体的に検討できるのも、その後ということになる。

## 令和5年度「桜まつり」（仮称）の開催について

先月、令和5年度（令和6年4月）に鹿ノ台中央公園において「桜まつり」（仮称）を開催して交流を深めていったらどうかという提案を行った。昨年に「森のコンサート」を実施した実績と経験を活かし、コンサートのみならず、各桜美会・同好会のお花見会、キッチンカー・マルシェ・バザーなどを柱に実施していきたい。

実施体制としては、未来会議に実行委員会を立ち上げ、外部からもメンバーに入っていただいて企画・実施していきたい。メンバーとしては交流分科会の全員に加え、子育て分科会と高齢者分科会からもそれぞれ1～2名入っていただきたい。コンサートの担当については適任者を選定して依頼する。実行委員会委員長には黒部未来会議副会長になっていただけるようお願いした。5月から未来会議全体会の後に企画検討会を実施したい。

黒部： 今年は4月に Toiro でコンサートを実施されると聞いているが、来年度は一緒にやって頂きたい。美鹿の台からもメンバーに入っていただき、子どもたちも含め全世代が楽しめるイベントにしたい。「桜」がテーマなので3月末か4月第一週の土日のどちらかあるいは両日を考えている。

## 鹿ノ台コミバス12月度乗車実績について（報告）

<u>1月の実績と6か月の累計：</u> 令和5年 1 月の実証運行の日数は11日、乗車実績は累計 448 人、一日あたり平均 40.7 人である。4日・6日は正月明けで乗車が少なかった。午前乗車が48％、午後乗車が52％である。先月までは午前乗車が6割を占めていたのだが、1月は寒さが厳しかったせいか、違う結果となった。いきいきホール降車が15％を占めている。いそかわ協賛キャンペーンの効果が出ていると思われる。地域別の乗車割合は、いきいきホール前からの乗車を除いた数値を100として、東地区からは24％、西地区からが23％、南地区からが17％、北地区からが35％と、北地区の利用者が増えている。昨年8月～今年1月の6か月累計は、運行日数72日、利用者合計3149人、一日あたり43.7人だった。

<u>利用者アンケートの結果：</u> 12 月 19 日～1 月20日の期間、利用者への満足度調査アンケートを実施した。158通配布し、77通を回収した（回収率48．7％）。乗車頻度は、週1回程度が33％、月3回程度が26％、合わせて6割が頻繁に利用されている。運賃については、鹿ノ台内部での利用の場合、190円（ひまわりで165円）は割高だと感じている人が多い。運行曜日については、現行のままで良いという意見が多かった。運行時刻については9：40～15：05の時間内で8

便という条件を変えずにできる変更として、登美ヶ丘駅11：35発が帰りの便として早すぎるので12：10発に変更したいと考えている。回答者の年代層は、80％弱が高齢者、60％が女性だった。

実証運行の延長とダイヤ改正：　実証運行は今年7月までとなっているが、本格運行に移るまでに決定後2か月の準備期間が必要である。運行が止まる空白期間を作らないためには、4～5月に本格運行を決めねばならず、新年度早々の新役員で決めるのは難しいと考える。また1年間を通して季節要因を確認してから決定したいということもある。そのため、来年の2月頃まで実証運行を継続することを連合役員会で決定してもらった。3月3日の市の協議会において、この決定と新しいダイヤを承認していただく予定にしている。承認されれば新ダイヤは5月頃から適用される。

質問：　コミバスの現状やいそかわ協賛キャンペーンの周知はどのようにやっているか。
回答：　当初は、この地域の高低差を考え、商店街・いそかわへの買い物およびいきいきホール・ふれあいホールへの交通手段として「ぐるぐるバス」を検討していた。他方で、銀行や病院などの用事で登美ヶ丘まで行けるようにしてほしいという意見もあったため、コミバスはそれに応える形で実証運行している。当初の想定ほどには買い物のための利用が多くないということで、いそかわ協賛キャンペーンを実施した。その周知のためには、自治会の回覧・掲示板、連合ホームページ、いきいきホールでの掲示・チラシ配布、およびいそかわ店内への掲示を行った。今後、いきいきホールのコーヒー券を使ったキャンペーンを実施することも検討中である。
意見：　当初、鹿ノ台内部の乗車で190円は高い、100円位にして欲しいという意見が多かった。今回のキャンペーンでは10回乗車で500円商品券がもらえるので、ひまわりの利用で実質1回165円の運賃に対して50円分が戻るということで、希望に近い運賃を実現している。
質問：　コミバスのバス停まで遠い人も少なくない。結ネットにも入っていない、回覧版も見逃した、という人もいるのではないか。そのような情報弱者の方向けにも、月1回の公園の清掃のときに評議員さんから伝えてもらうなど、情報発信を強化して欲しい。
意見：　回覧される議事録やチラシなどを綴じる順番が指定されていないが、重要度に応じて指定したらどうか。
回答：　情報発信は一層強化していきたい。チラシなどを束ねる順番は自治会長の決めることだとされている。

## 令和5年度未来会議　全体会／分科会　幹事会　予定

今回より、全体会の時間を13:30～15：20に延長したい。分科会は15：30～16:30とする。また、来年度の4月からも、全体会／分科会の日程は、毎月第3日曜に予定しているが、他の行事と兼ね合いで、4月・10月・1月は日程を変更した。

## ECOKA 委員会

ECOKA 委員会が、令和4年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受けた。林野庁の情報月刊誌『林野』の裏表紙で紹介されている。10年以上にわたり地域の住環境整備・環境教育・環境保全啓発イベントを続けてこられた ECOKA 委員会の山田勲さんからご報告いただく。

山田： 鹿ノ台には、総面積12ヘクタールにおよぶ周辺緑地がある。公園としては、児童公園（街区公園）11か所と運動公園、中央公園がある。これらをすべて緑と換算した緑被率は、市街化区域としては全国一だと思う。ECOKA 委員会が鹿ノ台の周辺緑地の整備を開始して12～13年になる。住宅地として開発された当時、この周辺地には木が生えていなかったが、それから45年が経過し、そこがジャングル化し、ゴミ捨て場と化していた。冷蔵庫やテレビ、バイク、財布、骨壺、学生証など、ありとあらゆるものが捨てられていた。

ECOKA 委員会は、この状態を改善し、安心・安全な住宅地にするべく、整備と続けてきた。ゴミを傾斜地で回収し、市に回収してもらえるよう分別作業をしており、これは大変な作業である。権谷川河川敷から大量のゴミを持って何度も傾斜地を上るのも大変である。最初のころは一度で軽トラ1台分のゴミを回収していた。現在は、年間に回収するゴミの量は軽トラで4～5台分ほどである。

三菱UFJ財団から桜の寄贈を受け（3年間で180本）、周辺緑地に植樹もしている。桜以外の植樹と合わせて年間200本ほど、合計で1000本以上の植樹を、第1緑地，第2緑地，第4緑地、第8緑地で行ってきた。また、すべての緑地を年2回ずつ草刈りするために、毎週4回、作業を実施している（以前は3回ずつ回っていた）。

地域愛から、このような住環境整備の作業を実施していることをご理解いただきたい。また、次の世代に引き継いでいきたいので人材確保に努めているが、他の委員会と同様なかなか見つかっていない。皆さんの課題として若い方にも考えていただきたい。

## 周辺地域の人口減少率と侵入窃盗件数率（2013．1．1➡2023．1．1）

1枚目は、鹿ノ台と周辺地域の過去10年間の人口推移を著したグラフである。2013年の人口を基準に、以後の増減をパーセントで表している。この10年間で鹿ノ台の人口は8．13％減少したが、2020年以降は減少率が緩やかになっている。2013年→2020年の減少率は7．21％（1年あたり1．03％）であるのに対し、2020年→2023年の減少率は0．92％（1年あたり0．31％）である。2020年以降は、ひかりが丘や北大和など他地域よりも減少率が低くなっている。

2枚目は、鹿ノ台と周辺地域の侵入窃盗件数率である。鹿ノ台交番管区内（鹿ノ台、美鹿の台、鹿畑町）では、コロナ禍で在宅が増えた2019年と2020年が1万世帯あたり3件、2021年が同5件だった。ただ、それ以前の2018年でも鹿ノ台交番管区は1万世帯当たり8件であり、同年の白庭台交番管区の同30件よりもずいぶん少ない。青パトなど地域の防犯活動の成果が出ていると思われる。このデータは、生駒警察署の生活安全課から黒田さんが提供を受けたものである。

# 次回

日時:　令和5年3月19日(日) 13:30～16:20
「南北」の構成員および幹事は13:15集合

場所:　西集会所

以上